

国民の創生

Kakuya Ohashi
and Dancers

2018/9/1 - 9/2
シアター・バビロンの流れのほとりにて

「東京バビロンのダンスコレクション 2018」

参加作品

国民の創生

ご来場の皆さまへのお願
い
上演の妨げとならないよう、携帯電話はあらかじめ音の出ない状態に設定してください。
許可の無い撮影および録音は禁止させていただきます。

主催：東京バビロン

共催：一般社団法人大橋可也 & ダンサーズ

協力：公益財団法人セゾン文化財団

国民の創生

出演：阿竹花子、松尾望、高橋由佳、ヒラトケンジ、山口雅嗣、近藤康弘

振付・構成・演出：大橋可也

音楽：鼓次郎

衣装：古郡稔

音響技術協力：中原楽（ルフトツーク）

照明オペレーション：坂本康郎（東京バビロン）

スタッフ：皆木正純、横山八枝子、小松杏里

記録写真：GO

profile

鼓次郎（こじろう）

1989年、兵庫県生まれ。多摩美術大学に入学後、映像作家ほしのあきら氏の元で、和太鼓を学ぶ。2013年よりソロ活動を開始。改造和太鼓を使い、ライブハウスを中心に和太鼓が今迄無かった領域に切り込んだ活動を展開。和太鼓チーム「器 -UTSUWA-」を立ち上げ、フィリピンでの劇場公演をはじめ、ロシアでの企業のセレモニーなど、積極的に活動している。大橋可也&ダンサーズには2015年の『ヘヴィメタル』公演に音楽として参加。伝統芸能ではない和太鼓の可能性を押し広げるべく活動中。破戒がモットー。

阿竹花子（あたけ はなこ）

1996年、London Studio Centre 卒業。クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、アシュタンガ・ヨガをバックボーンに日本、イギリス、フランスのダンスカンパニーや劇団に客演するなど国内外で活動する。2005年の旗揚げよりクリウイムパアニーの踊り子。『斎王』奥田瑛二監督ノ三重テレビ制作(2016)、『ピンク・ダンディ』自作ソロ(2017)、『KれウィンパーNnイー』クリウイムパアニー(2017)、『crewimburnny presents ¥%楽 Party!!!』クリウイムパアニー(2018)

また、ヨガインストラクターの顔も持つ。2002年より12年間に渡り、ケン・ハラクマ主宰インターナショナル・ヨガ・センターでアシュタンガ・ヨガのクラスを担当。シルク・ド・ソレイユ来日時や、アディダス、ゴールドウイン主催WSで講師を務める。

＊ ＊ 2019年6月 クリウイムパアニー新作公演決定！ ＊ ＊

松尾望（まつお のぞみ）

9歳よりクラシックバレエを始め、18歳で上京後コンテンポラリーダンスに出会い加賀谷香に師事。これまでに小池博史、北村明子、奥野美和、Pichet Klunchun、David Rousseauなど、数々の振付家、演出家の作品、国内外のプロジェクトにダンサーとして参加する傍ら映像作品の振付等、幅広く活動を展開している。「ソロダンスフェスティバル2014振付賞」受賞。

高橋由佳（たかはし ゆか）

1991年、東京生まれ。所属している演劇活性化団体uniではリサーチを元に演劇作品を上演する「ちょいとそこまでプロジェクト」に携わっている。大橋可也 &ダンサーズへの出演は昨年「ザ・ワールド2017」に続き2回目。主な出演作品は、杉田協士監督短篇映画『遠くの水』（第8回ちば映画祭にて上映）、パルテノン多摩×FUKAIPRODUCE羽衣『愛いっぱいの愛を』、五反田団『新年工場見学会2018』など。

ヒラトケンジ

2017年、15年振りに踊ることを再開。セッションハウスの21フェスにて、同年9月『ロンリープラネット』、2018年1月『sumaho』を発表。2月妙善寺にてダンサー7人とミュージシャン2名による即興『有微あるいは無微』に参加。8月スターバインズカフェ主催arrivingに R Under Laboratory(akko振付)メンバーで参加。今回、大橋可也作品に2000年以後の参加。

山口雅嗣（やまぐち まさし）

1973年8月、広島県三次市生まれ。身体を動かすことは苦手であったが踊ることに幼い頃から関心を持っており、1993年からバレエを始める。1999年上京。限界を感じ2003年バレエを辞める。それからダンスとは全く縁のない生活を送るも2015年再び踊りたくなり、コンテンポラリーダンスや舞踏などのワークショップに参加。2016年大野一雄舞踏研究所に通う。2017年よりイベント等で踊る。2017年10月、池田美美代『Powerlessness』出演。

近藤康弘（こんどう やすひろ）

杜の都、仙台市出身。2005年頃より、演劇活動を開始。有り難い事に、これまで国内外で活動をさせて頂いております。大橋可也 &ダンサーズには「ザ・ワールド2017」に続き、2度目の参加です！

古郡稔（ふるこおりみのる）

1983年、埼玉県生まれ。2013年より大橋可也 &ダンサーズへ参加。大橋可也&ダンサーズでは東京バビロンプロデュース『驚愕と花びら#03』（2016）、明治座アートトリエンナーレのクロージングパフォーマンス『沈黙』（2016）での衣装を担当。演劇・ダンス衣装デザインの他、グラフィックデザインの領域でも活動中。

大橋可也（おおはし かくや）

一般社団法人大橋可也 &ダンサーズ代表理事・芸術監督。1967年、山口県宇部市生まれ。1993-1997年、和栗由紀夫に舞踏を師事。1999年より振付作品の発表をおこなう。ソフトウェアのエンジニアとしても業務システムからヒューマノイドロボットのアプリケーション開発まで幅広い技術分野で活動している。

大橋可也&ダンサーズ

1999年、結成。暗黒舞踏の振付法を基に現代社会における身体の在り方を問う作品をつくり続けるカンパニー。代表作に、秋葉原連続殺傷事件に想を得た『帝国、エアリアル』（2008年・新国立劇場）、飛浩隆の長編小説を題材にした『グラン・ヴァカンス』（2013年・シアタートラム）。SF作家長谷敏司とのコラボレーション『プロトコル・オブ・ヒューマニティ』（2016年・EARTH+GALLERY）。ドラマトゥルク長島確と江東区を舞台にしたリサーチに基づくプロジェクト「ザ・ワールド」を継続中。